

アナーバー JAPAN WEEK

イースト ランシングの公立学校では一年が終わり、9月第1月曜日の「レイバー・デー」までの2か月を超える長い夏休みに入りました。近所の子どもたちは、サマーキャンプや家族との旅行などを心待ちにしているようです。特に夏至の頃には、ミシガンでは夜 10 時近くまで外が明るいので、夕食を食べてからでも散歩に出かけるなどの野外活動が楽しめます。

そんな中で出会うのが「ホタル」です。日が暮れた後、公園はもちろん、道路沿いの芝生の上にも、フワフワと緑の光が飛んでいます。日本のホタルに比べると近所のホタルは発光時間が短く、小さな流れ星のように、瞬きしている間にも消えてしまうくらいなのですが、数多く飛び交う日は眺めていて飽きません。ミシガンでは6月中下旬頃からがシーズンようで、涼しくなる宵のひと時を和ませてくれます。

さて6月18日から一週間、彦根市の姉妹都市であるアナーバー（Ann Arbor）で、3年目となるジャパン・ウィークが開催されました。太鼓イベントや手巻き寿司のワークショップなど、日本の文化を楽しんでもらおうと、ミシガン大学日本研究センターが中心になって2015年から毎年この時期に開催しているイベントです。

初日には、キックオフイベントとして、歴史あるミシガン・シアターで『もののけ姫』（Princess Mononoke）の無料上映会があり、多くの観客が訪れていました。このシアターは1928年にオープンし、今は非営利団体によって保存・修復、そして運営されています。1979年には、解体されてフードコートに変えられそうになる危機に直面しましたが、シアターを救おうと団体が設立され、40年近く経った今も、地域の人々が集う場としての役割を果たしています。写真のとおり、レトロな雰囲気漂う外観とともに、内部の装飾の豪華さも見事です。

また、6月22日の「手巻き寿司ワークショップ」には、定員80名だったのですが、100人以上が訪れるほど大盛況だったと聞きました。日本の文化は、ミシガンでも大人気です。

